



安全で美しい里海を未来に

能登海上保安署活動日誌

小木にある能登海上保安署では
12人の海上保安官が日夜、海の安全を守っています。
能登の里海を守るための活動を紹介します。



水難救助訓練にあたる「おぎかぜ」乗組員

ひばり保育所の海洋環境教室。「環境かみしばい」で海にごみを捨てないよう約束しました。



日本海の安全のかなめ

能登海上保安署の存在感

海 上保安庁は昭和23年に発足し、海の安全を守っています。日本列島の沿岸を11の地域に分けて、それぞれに管区保安本部を設置しています。

石川県は新潟・富山・長野県とともに第九管区海上保安本部の管轄に含まれます。海上保安署は、私たちの生活に最も近い場所にある、海の安全を守る拠点です。



最前線で活躍する相棒

巡視艇「おぎかぜ」

お ぎかぜは、海上保安署近くの棧橋に係留されています。12人の署員は、巡視艇「おぎかぜ」の乗組員とおぎかぜに指示を出したり、他の組織と連絡を取ったりする陸上職員です。巡視艇は海で機動力を発揮する重要な存在ですが、陸上と連携を取ってはじめて、その威力を発揮できます。

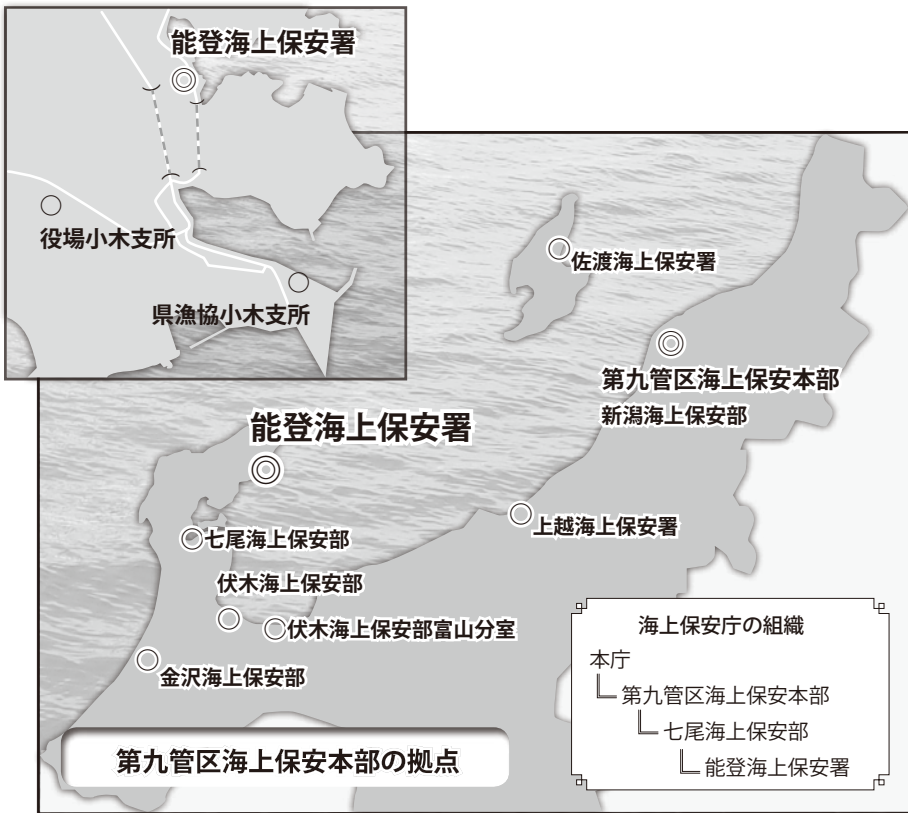
乗組員は8人いて、船を動かせるよう、5人が休日も待機しています。船は定期的な検査実施が定められていて、整備や塗装などは保安官が実施します。自分が乗っている船をきれいに保つだけではなく、不具合箇所がないか確認しています。

CL-101 巡視艇「おぎかぜ」

総トン数 26ト
人員 5名
船型 20メートル型
能登半島の先頭に一番早く到着できるため、第九管区保安本部内で重要な役割を担います。



とも旗祭りを見守る「おぎかぜ」



海で楽しく遊ぶため 次のことを守りましょう

遊泳するときは

- 最新の気象情報を確認
 - 体調不良で海に入らない
 - 小さい子どもから目を離さない
 - 離岸流（沖に向かう強い流れ）に注意する
- 離岸流に流されたと思ったら海岸線と平行に泳いで離岸流から脱出してください。

磯釣りや船に乗るときは

ライフジャケットを着用し、携帯電話など、何かあった場合の連絡手段を確保してください。

詳しくは、第九管区海上保安本部マリンレジャー安全推進室ホームページにも掲載されています。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kainan/anzensuishin/marine-leisure.html>

☎海の「もしも」は
118番

📍能登海上保安署 ☎ 74-8118

海の安全情報は「MICS」でも
「MICS」を利用すると手軽に海の緊急情報を入手できます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>



平成 27 年度海上保安庁職員募集

（平成 28 年 4 月入学）

海上保安大学校

受付期間

インターネット 8月27日④～9月7日⑤
郵送・持参 8月27日④～8月31日⑤

試験日程

一次試験 10月31日⑤、11月1日⑤の2日間
二次試験 12月18日⑤

海上保安学校

受付期間

インターネット 7月21日④～30日⑥
郵送・持参 7月21日④～23日⑥

試験日程

一次試験 9月27日⑤
二次試験 10月20日④～29日⑥

試験日程、受験資格、試験内容、試験地、その他詳細についてはお問い合わせください。

📍第九管区海上保安本部 ☎ 0725-285-0118
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/saiyou/bosyu.html>



不審船を停船させる沿岸警備訓練

水 産資源で生活をしている漁業者にとって、密漁や乱獲は大きな脅威です。漁獲量や操業期間は法令で定められています。不法な漁が行われていないか、漁業者と協力して監視、取締りを行っています。

能登の海岸線は長く、密入国や拉致などの犯罪の舞台となる恐れがあります。警察や地元関係者と連携して、定期的に訓練やパトロールを実施。常に監視の目を光らせています。

治安の確保、領海を守る

能 登海上保安署の管轄内には宇出津、小木、飯田の各港があり、工事やイベントを行うときに、安全を確保するため、業者などに指導を実施しています。

急 激に沖に流されてしまう「離岸流」が発生していないか、海水浴場などで調査し、事故防止活動を訴えています。

海上交通の安全を守る



能登町内浦一周駅伝大会に海の緊急電話「118」番のゼッケンを付けて出場。参加者や沿道で応援する人に、周知・啓発しました。



海中転落時に浮くことができるよう、小学校で着衣泳教室を実施



インドネシア人漁業実習生に対して毎年安全講習を実施している

海 域の安全に協力
海上保安署の使命
生命を救う・災害に備える

では、事故などにより多くの命が失われています。救助の訓練を重ねて、体制を整えるだけではなく、日ごろから啓発活動を行い、事故の未然防止を訴えています。海難救助には消防や、NPO法人能登水難救済会など、地域との連携も欠かせません。

また、小木地区防災訓練では、船舶や航空機を使用して、物資の輸送や避難手段の確保の任務にあたりました。漁業者だけでなく、地域に住む人の安全も見守ることも大切な使命です。



小木地区防災訓練でヘリコプターを使った救援物資輸送訓練を実施



道路の寸断によって孤立した地区から、船舶を使って避難する訓練

チームワークが重要

地域の理解と協力を得る



坂下雅弘 署長

能 登で勤務するのは3回目、期間にして8年ほどで、残りは新潟、金沢、富山など第九管区内の他の拠点で勤務しました。地元・白丸の出身です。海上保安官になって41年です。陸上勤務と船上を3、4年交替で経験してきました。船は団体生活であり、海上保安官はチームワークが重要です。業務に支障がないときには、地域の行事に署員を参加させることにしています。地域とともに海の治安、救難活動、環境保全にあたり、漁業に携わる人の権益を守り、海での事故が発生しないように努めています。

高齢の漁業者が増えているので、事故の増加を心配しています。いったん海に出ると、陸に簡単に戻ることはできません。出航前の点検を万全にし、自分の命を守ってください。

小 木で生まれ育ち、父や祖父がイカ釣り漁師だったこともあって、小さいころから海は身近な存在でした。小学生の時に、テレビ番組で海上保安官のドキュメントを見たのが職業に憧れを抱くきっかけでした。中学校のときに職場体験で海上保安署を訪れ、一層思いが強くなりました。

自分が勤務する船には愛着があります。「おぎかぜ」では航海士補として、リーダーによる見張りなどを行い、他の乗組員と力を合わせて仕事をこなしています。能登での勤務は、住んでいるのとは違った視点で地元を知ることができ、非常に充実した毎日です。

事故によって救助が必要となる事態が発生しないことが理想です。ライフジャケットを着用して、事故が発生しないよう協力ください。



石場功一 航海士補

あこがれていた海上保安官
ふるさとで送る充実の毎日